



小原井・モロツカウミズサクラ

エコツアー「諸塚でやま学校しよう!」令和3年度 年間スケジュール決定!

村に昔から伝わる、古の技を体験するコースです。どれも、昔は生活の一部として当たり前に行われていたものばかり。自然と共に生きる諸塚村で、生活の知恵として息づいてきた技術をお楽しみください。今年は、リアルとオンラインで開催予定です!

万全の感染対策のもと行います。マスク着用や消毒、検温などご協力をお願いいたします。

料金 4,000円・小学生まで3,000円 諸塚村民は500円OFF!!

第177回 2021年 6月5日(土)

最古の調味料!
摘みたて梅で梅しごと

第178回 2021年 7月3日(土)

森の青い滴♪
ブルーベリーでジャムづくり

第179回 2021年 8月7日(土)

希少植物 ・8日(日)
キレンゲショウマ観察会

第180回 2021年 9月4日(土)

森を探検!知る人ぞ知る
秘密の滝へ

第181回 2021年 10月2日(土)

素材は全部村のもの!
手作り柚子ごしょう

第182回 2021年 11月6日(土)

諸塚村最高峰!
黒岳登山

第183回 2021年 12月4日(土)

かずらを編んで♪
カゴづくり

第184回 2022年 1月8日(土)

日本蜜蜂のみつろうで!
やさしいリップづくり

第185回 2022年 2月5日(土)

原木しいたけ狩りと
コマ打ち体験

お申込・詳細はコチラ

「もろつかナビ」で検索 🔍

〈発行元〉 送付をご希望の方、送付中止をご希望の方は下記へ
〒883-1301

宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代 3068 しいたけの館 21 内
一般社団法人 諸塚村観光協会 まちむら応縁倶楽部

TEL:0982-65-0178 FAX:0982-65-0189

ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp



情報発信中! /

もろつかストア
Instagram
twitter
facebook
YouTube



しぜんと、
つながる。



諸塚村
Morotsuka Vill.

昔日のリアルやま学校

コラム連載 vol.6 『その昔』

新学期になると決まって思い出す事の一つに、家庭訪問があります。

昭和30年代始めには、先生方でバイクを持っている人は希で殆どの先生が歩いて家庭訪問していました。生徒は途中まで出迎えに行き先生を案内して来るものでした。家では、主が待ち構えていて挨拶もそこそこにまあ1杯と進めるのが常で、軒数を重ねると先生も次第に酔いが廻り本音で語り合い意気投合していましたが、中には山芋を掘り出す(酔って管を巻く)先生も。

当時は、今と違って連絡簿等もなく、親父が先生と交わる事など滅多になく、数少ない交流の機会だったと思います。とにかく、学校の事は先生に全権委託して学校で怒られたと云うと、親父からお前が悪いからと又、怒られる始末でしたが懐かしき時代の一コマです。

尾形



▲昔の学校の様子



▲昭和10年頃の先生と生徒

VIEW SPOT

諸塚山から尾根筋を走る九郎山林道(諸塚山スカイライン)の途中にあるのがここ、猿越公園。最近では周囲の木が育ってきたため、諸塚のモザイク林相を眺めるには今がギリギリのタイミングのようです。360度、どこを見ても山! 諸塚村独特の新緑のモザイク林相を楽しめるのは今だけです。

岩切



―千葉から諸塚へ、移住のきっかけは？

ずっと千葉に住んでいたわけではなく、国内や海外を転々としていました。海外でパーマカルチャーと出会い、自然とつながって暮らすことの大切さを体感し、それを実践できる場所を探していました。手作り、自給自足で生きる諸塚の環境に魅かれて移住を決めました。

―諸塚ではどんな活動をされる予定ですか？

諸塚村観光協会働きながら、エコツアーを通して諸塚に残る古くからの知恵を学ぶことが楽しみです。その中で、自分が感じてきた豊かな暮らしをたくさんの人にお届けできたらと思います。池の窪グリーンパークや古民家に滞在しながら、都会で暮らす人も自然に帰り健康的な生活を送れるような活動をしていきたいです。



千葉県出身

自然に憧れて20カ国以上の海外へ。現地の人と同じ暮らしを送りながら、オーストラリアでパーマカルチャーに出会い、自然循環を意識した生活スタイルを送りながら自給自足を目指して生活している。趣味は写真を撮ること。



インタビュー：田邊

諸塚の人と自然に出会う日々

vol.1 春の香り

移住者の目で見ると諸塚の人と自然をお届けします。

新緑が美しい季節、山の色相も日に日に変化していきますね。桜の花も散り、山からピンク色が消えると、今度は、薄紫の花々があちこちで山を彩っているのが目につき、紫の花を咲かせる木があるんだなあ、と思ってよく見ると、木々に蔓を匍わせた藤でした。藤の花は天ぷらにして食べられると聞き、早速やってみました。まだ蕾が残る花の房を採り、さっと揚げていただくと、口のなかでフワッと藤の香りが広がり、なんとも幸せな気分。

諸塚の人々は、山菜をよく知っています。自分の好きな山菜がいつでも採れるかわかっていて、季節の移り変わりと共に次々と芽吹く山菜を、「これも食べられる」「こうやって食べるとおいしいよ」と色々教えてくれます。山菜は、見つけたからといってどこでも採らず、根こそぎ採ることもしません。タラの芽など木の芽は、新芽がまた生えるように、芽の生える節を残して採ります。タラの芽が好物な人は、家の側に植えていたり、高い枝の芽でも採れる道具を独自に開発していたり、収穫の知恵もあれこれ。

家の庭に植わっている木といえば、昔は、どこの家にも山椒が植えられていたそうです。山椒の香りが魔除けになるとも言われ、寿命で枯れてしまった山椒の幹は「すりこぎ」にして使われていたのだとか。そんな話を聞かせていただいた山本商店で、「山椒のすりこぎを作ってみたいなあ。」と呟くと、「その辺に枯れた山椒の木があったよ。」と近所で枯れた山椒の幹を切ってきてくれました。

都会では簡単に手に入らないものが、ここにはたくさんあって、「豊かだなあ。」と感じることが多い山の暮らし。山々の風景は嫌なことも忘れさせてくれるほど美しく、自然の恵は、体にも心にも潤いを届けてくれる気がします。



▲自然の中の藤の花



▲▲山椒の木と枯れ枝



▲山本商店

ご報告

みつろうリップづくり

2021年3月6日 開催



諸塚の日本ミツバチの巣から取り出した貴重なみつろうを使い、体にやさしいリップとハンドクリームを作りました!今回はオンラインでの開催ということで、舞台は森の古民家「やましぎの杜」。

みつろうを取り出す所は動画でしたが、リップとハンドクリームと一緒に作りました。作業自体は簡単ですが、皆さん日本ミツバチのみつろうに興味津々で、釜炒り茶でのおやつ時間に質問もたくさん。講師の作られたみつろうを販売できるよう、現在準備中です!



◀ 容器に流し込んだ状態。綺麗です。

▲ やま学校生の様子を見ながら進めます

ご報告

やま学校の足跡を語ろう! やま学校同窓会 inZoom

2021年3月20日 開催



日本全国(海外も!)で暮らすやま学校生の皆様にご参加いただきました!仲良しの常連さん同士も久しぶりにこの同窓会で再会。「あの方は元氣ですか?」「今はどうされているんですか?」と近況報告が弾みます。

今回は、それぞれが参加された回の写真をご用意。写真が変わるたびに「懐かしい」「これ覚えてる!」と、当時の思い出話に花が咲いていました。規定の時間が過ぎた後は、「放課後」として時間の許す限りお喋り。

やま学校への来校回数はみなさんそれぞれでしたが、「また諸塚へ行きたい」と仰っていただけて、とても嬉しかったです。

気兼ねなくお迎えできる日が来るまで、諸塚もやま学校も変わらずにお待ちしております!

▼ 背景には、過去の写真を並べました



ご報告

第36回 諸塚山山開き リモート登山ツアー

2021年3月27日



1日限りのイベントではなく、1カ月間のキャンペーンとして行った第36回諸塚山山開き。例年のイベントでは、開山式典(安全祈願神事)と登山が行われますが、今年は密を避けるためオンラインでの開催。

参加者のお手元には、登山動画内で山頂に着いた時に食べる用のお米やお煮しめを事前にお届け。撮影しておいた神事や登山の動画を一緒に見ながら、ゲストである諸塚神社宮司・甲斐秀樹さんのお話を伺いました。

古代から神山として崇められてきた諸塚山。ただ登るだけでなく、山のことを知っていただく良い機会となりました。



編集後記

今日(4月23日)、4都府県に3度目の緊急事態宣言が発令されます。何時になったら落ち着いてくるものやら。 尾形

例年より10日以上早く咲き始めた諸塚山のアケボノツツジ。きれいな花にみとれますが、一方で気候変動の影響が心配になります。 田邊

新年度、子どもたちもようやく新しい学校生活に慣れてきたようです。今年も無事に運動会が開催できますように! 黒木

初めてハチの巣箱を設置してみました。ミツバチ入ってくれるといいな。 金子

先日、日本ミツバチの分蜂らしきものを見ました!家の周りだけでも「初めて」が尽きない毎日が楽しいです。 岩切